

国語－４（第２学年） 事物について説明した文章を読み紹介したいことを書く事例

【学習活動の概要】

1	単元名 読んで調べたことを紹介文に書こう
2	単元の目標 文章を読んで伝えたいと強く感じたことを基に、必要な材料を選んで読み、順序を考えて紹介文を書くことができる。
3	評価規準 【国語への関心・意欲・態度】 ・本や文章を読んで、驚いたこと、興味をもったことなど伝えたい事柄や考えをはっきりさせ、最も伝えたいことが伝わるように紹介文を書こうとしている。 【書く能力】 ・読み手に向けて伝えたいことについて、書きたい材料を選んだり付け足したりしながら説明の順序に気を付けて紹介文に書いている。 【読む能力】 ・書かれた順序に気を付けて、本や文章から特に紹介したい情報を選んだり、紹介したいことを伝えるのに必要な情報を探して読んだりしている。 ・自分が伝えたい大事な言葉や文を、文章から書き抜いている。 【言語についての知識・理解・技能】 ・様子を表す語彙から適切な語句を選んで表現している。

4 教材 ビーバーの生態について易しく述べている教科書教材文 関連図書資料

5 主な学習活動

(1) 単元の指導計画（全7時間）

次	学 習 活 動	言語活動に関する指導上の留意点
一	○ビーバーについて書かれた資料を読み、「不思議だ」「すごい」と思ったことを話し合う。	○図書資料に関心が高まるように関連資料を読み聞かせたり、学級文庫にそろえたりする。
①	○ビーバーについて、初めて知ったことや驚いたこと、興味をもったことなどを家の人に紹介する文章を書くというめあてをもつ。	○伝えたい思いが高まるよう、具体的な相手を設定する。
二	○ビーバーのダム作りの様子について書かれた文章を読む。	○「書くために必要な情報を見つけて読む」「読んだことを生かして書く」ことを繰り返し、複合的に位置付ける。
②	○文章に書かれていたことから紹介したいことを選んだり、紹介文の書き方を考えたりする。	○教科書のダム作りと巣作りの記述量を比較することで、「もっと知りたい」という思いを喚起する。
三	○ビーバーの巣作りの様子について書かれた文章を読み、紹介したい情報を見付け出す。	○読み手である自分が「すごい」と思ったところに焦点を当てて情報を得たり、紹介文に書いたりできるようにする。
①	○巣作りについて相手に伝えたいと思ったことをより詳しく紹介できるように、挿絵や教師自作の補助資料から得た情報を基に、教科書本文に必要な情報を書き加える。	
四	○ビーバーについて、「一番すごい」と思ったことが伝わるように紹介文を書く。	
③		

(2) 本時の学習（本時4/7）

○ねらい これまで並行して読んできた図書資料や補助資料を基に、教材文に書き加えて紹介したいと思うビーバーの情報を探して読み、教材文に書き加える。

○学習活動の実際

教材文に書かれているビーバーのダム作りと巣作りについて書かれた部分を比較し、ダム作りの記述がより詳しく書かれていることに気付くようにする。そして、巣作りについて、情報を書き加えて文章を詳しくすることで、より詳しい紹介文にしたいという思いをもたせる。

次に、詳しい紹介文に書き換えさせるための資料として、巣作りについて詳しく書いた補助資料を作成して提示し、詳しい紹介文を書く上で必要となる新しい情報を見出すようにする。

実際の紹介文を書く際には、書き換え（書き加え）させるための段落を提示し、教材文に必要な情報や、相手に伝えたい情報を書き加えて紹介文を書くことができるようにする。

【解説】

【指導事例と学習指導要領との関係】

小学校学習指導要領・国語の第1学年及び第2学年「B 書くこと」の指導事項「イ 自分の考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。」と「C 読むこと」の指導事項「イ 時間的な順序や事柄の順序などを考えながら内容の大体を読むこと。」「エ 文章の中の大事な言葉や文を書く抜くこと。」とを関連付けることにより、効果的な指導を行うことを意図したものである。

その際、「B 書くこと」の言語活動例「エ 紹介したいことをメモにまとめたり、文章に書いたりすること。」と「C 読むこと」の言語活動例「ウ 事物の仕組みなどについて説明した本や文章を読むこと。」とを組み合わせた複合単元を構想し、「ビーバーのここがすごい」と思ったことを伝えたいという思いを膨らませて学習を展開できるよう工夫して指導の効果を高めた事例である。

【言語活動の充実の工夫】

①単元を貫く言語活動の位置付け

単元全体を貫く言語活動として、「ビーバーの紹介文を書く」ことを位置付けている。この言語活動の位置付けにより、児童が一貫して目的や相手を明確に意識して学習指導を進めることができるようにしている。

②学習過程を明確にする「読むこと」と「書くこと」を複合した単元構想

本単元では、ビーバーの紹介文を書くという言語活動を目指して、「読むこと」と「書くこと」とを複合させた単元を構想している。その際、単に「読むこと」と「書くこと」の学習をつなげて行うだけではなく、それぞれの学習が一層効果的に行われるように工夫している。

「読むこと」においては、単に与えられた情報を正確に読み取ることにとどまらず、自分が一番紹介したい情報を探しながら読むことができるようにしている。

一方、「書くこと」においては、自分の発見した驚きや喜びが読み手にも伝わるよう、順序に気を付けて書くようにする。その際、「読むこと」の学習が「書くこと」の情報収集の過程としても機能するように配慮している。自分の「一番すごい！」と感じたところを探しながら読むことで、児童は「読まされる」存在ではなく、「自ら情報を探して読む」ようになる。

③学習の見通しを立てる導入の学習

与えられた文章を正確に読み取ったり、与えられたテーマで順序よく書いたりすることだけに終始した学習とならないよう、導入の学習を工夫している。児童が主体的に学習を進めることができるよう、学習の見通しを立てる学習活動を位置付けている。

④言語活動の遂行のために必要な学習内容の整理

本時では、「一番すごい」と思ったことを紹介するために、必要な情報を探して本文に書き加えたり書き換えたりする。そのことが、紹介文を書くことにつながっていく。その際、これまでの学習を基に、何をどのように書き換え（書き加え）るのかを児童が明確に把握する必要がある。ここでは、次のように具体的な学習の進め方を整理している。

- ・資料を比較して読み、不足している情報を明らかにする。
- ・自分の「一番すごい」ところを明らかにする。
- ・書き加えたい情報を明らかにする。
- ・文章の中のどこに書き加えるのかを考える。
- ・教材文の記述をモデルに、どのように書き加えるのかを考える。

こうした整理は、本時において児童に何がどのようにできるようになればよいのか、すなわち付けたい力を一層具体的に把握することにつながる。指導の精度を高めていく上でもこのように整理することは重要である。

思考力・判断力・表現力等の学習活動の分類： ④, ③